

第 4 回えにわ多文化共生推進市民会議 議事録

日時	令和 8 年 7 月 23 日(木) 18:30~20:00
場所	市民活動センター(えにあす内)2 階 8-1、8-2 会議室

出席者

委員 15 名(欠席:3 名)

出席者氏名	市民会議 役職	所属
青 晴海	座長	北海道文教大学 副学長
後藤 章夫	副座長	恵庭市小中学校 校長会(恵庭小学校 校長)
栗野 紅		和光町内会 文化部長
吉田 豊		恵み野西町内会 副会長
平井 梓		認定 NPO 法人 まちづくりスポット恵み野 事務局長
三浦 由紀子		えにわ外国人サポートクラブ 代表
古岡 昇		日本医療大学 理事長補佐
村松 良太		学校法人リズム学園 あいおい子ども園 園長
山田 益		(製造業)株式会社ロバパン 総務部 管理課 係長
齊藤 英樹		(介護)医療法人盟侑会 介護老人保健施設アートライフ恵庭 事務長
秋月 克彦		(製造業)ユニマイクロンジャパン株式会社 総務部
関 詩怡		恵庭市在住外国人(文教大・留学)
グンゴブ チェスタ アリボン (代理出席)		恵庭市在住外国人(株式会社ロバパン・技能実習)
シティ ロカヤ(代理出席)		恵庭市在住外国人(アートライフ恵庭・特定技能)
石山 香織		公募市民

写真



1. 開会(中山課長)(18:30～)

- 出席者 15 名で過半数を超えているため、えにわ多文化推進市民会議設置要綱の規定により、会議が成立することを報告。
- 本会議は恵庭市情報公開条例第 23 条により公開する。

2. 議事(青座長)(18:32～20:00)

(1)事務局よりワークショップの流れ、ルール説明

- 前回のワークショップで出たキーワードを以下の 4 つに分類。
この 4 つの分野について、各グループに分かれて、日本人も外国人もともに安心して暮らす
まちにするために、市民、企業、学校、行政等にできることについて議論する。

①意識醸成・地域コミュニティ

②暮らす

③まなぶ

④仕事・労働

- 「暮らす」については、全グループ共通のテーマとする。A グループは「仕事・労働」、B グループは「意識醸成・地域コミュニティ」、C グループは「まなぶ」について話し合う。

(2)ワークショップ テーマ①(18:40～19:40)

「日本人も外国人もともに安心して暮らすまちにするためには？」

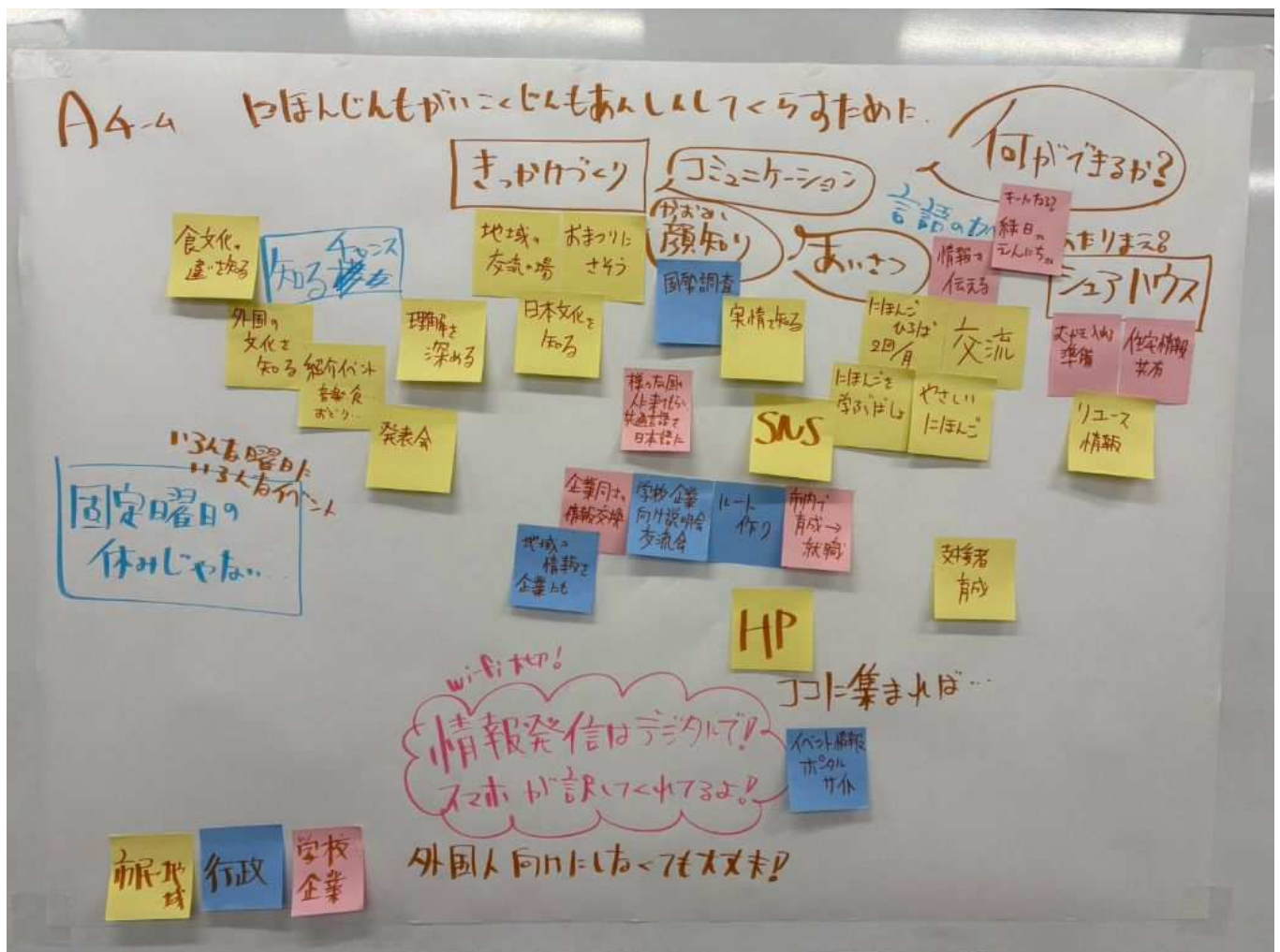
(3)グループ発表(19:40～19:57)

【A グループまとめ】

テーマ:「仕事・労働」「暮らす」

- 仕事・働くということは、やはり「暮らす」ことの一部である。
- 顔見知りになる、コミュニケーションを取るなど、きっかけ作りが重要。
- 地域の日本人は外国の文化を知る。外国人には日本語を学んでもらう、知ってもらう。
- 企業・学校間の情報交換や、行政の説明の場を設ける。
- 技能実習生など企業で働く外国人にも情報を伝える。行政→企業・学校→外国人というルートを作る。
- 言葉の壁はデジタルで超えられるのではないかな。日本語で発信したとしても、外国人は自分の言語に翻訳して確認できる。
- 外国人は固定休ではなく、勤務時間も不規則な人が多い。様々な曜日、時間にイベントをすることが必要。
- 音楽や食、踊りなど、相手の文化を知れるイベント(発表会など)があると良い。

【A グループまとめ 写真】

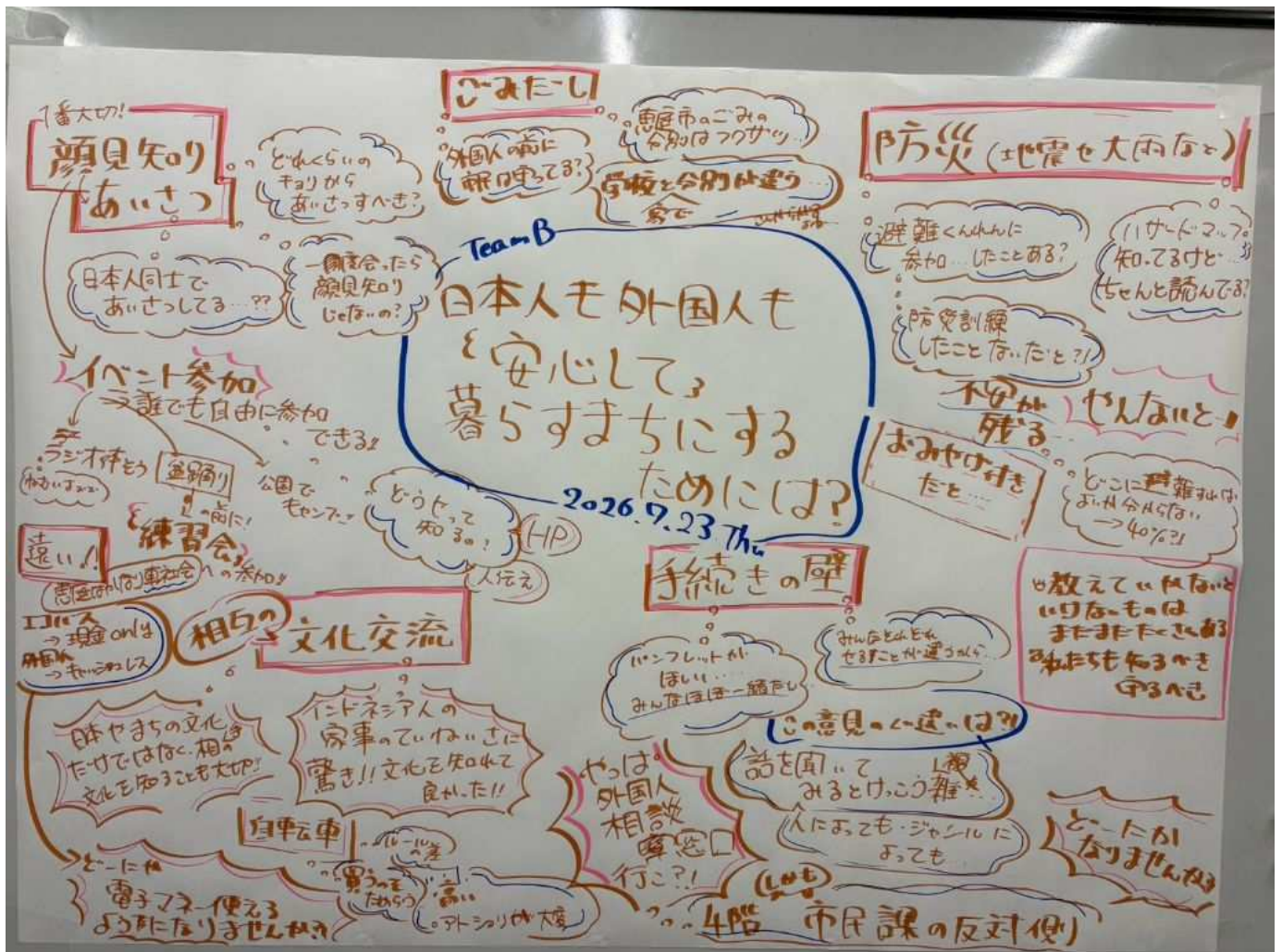


【B グループまとめ】

テーマ:「意識醸成・地域コミュニティ」「暮らす」

- 挨拶をし、顔見知りになる。
- 文化交流が大事。自分の文化だけでなく、相手の文化を知る。
- 恵庭市のごみの分別を知っている日本人と一緒に、外国人が分別を学べると良い。
- エコバスのキャッシュレス化。外国人にとっては電子マネーが使いやすい。
- 外国人相談窓口が4階にあり、1階市民課からも遠くアクセスしにくい。1階に移動してほしい。
- 外国人は避難訓練の経験がない人が多い。お土産付きにするなど、工夫が必要。
- 市役所の手続きは複雑。もう少しわかりやすくしてほしい。

【B グループまとめ 写真】

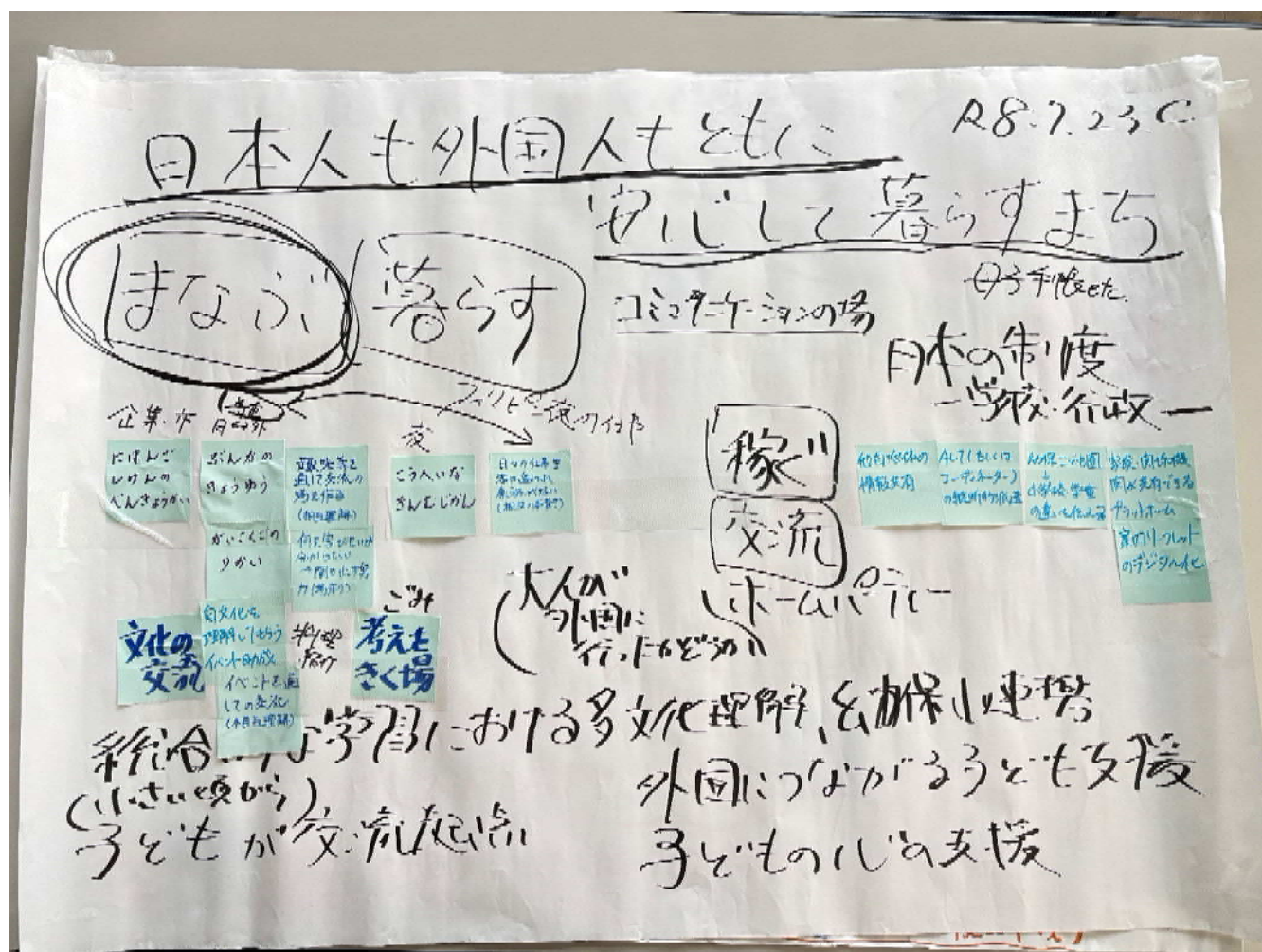


【C グループまとめ】

テーマ:「まなぶ」「暮らす」

- 子どもが交流起点となる。子どもが抱えている問題について、大人が焦点を当てることが大事。また、相手の国や家庭を理解し、子どもの心のケアをする必要がある。
- 子どもに関わる手続きは、学校と行政をまたぐこともあり、複雑で難しい。
→安平町にある「はやきたこども園」の例では、年長児の先生が、卒園後一緒に小学校に上がりサポート。半年たったら年長クラスに戻り、小学校で得た情報を共有。→外国籍の子どもにも情報連携できると期待。
- 情報をデジタル化する。
- プッシュ型の支援を行う。行政だけでなく企業や教育機関が支援する。
- 夜働くことが当たり前(苦でない)という国もある。価値観を押し付けず、企業が色々な働き方を認めることが大事。

【C グループまとめ 写真】



(5)その他(20:00～)

- 事務局よりやさしい日本語講座についてお知らせ
- 事務局より次回以降の開催のお知らせ
 - 第5回 8月24日(月) 18:30～
 - 第6回 10月1日(木) 18:30～

3. 閉会(20:00)